

入店拒否が続出…レプリコンワクチンは安全か？ 専門家は「シェディング（伝播）することはない」〈“高齢者が打つべき5大ワクチン”にも言及〉

10/16(水)文春オンライン

Meiji Seika ファルマ社が製造・販売した新型コロナの次世代型ワクチン「レプリコンワクチン」（以下、レプリコン）を巡る騒動が続いている。

「接種した人から非接種者へワクチンの成分が感染する、いわゆる“空中伝播（シェディング）”が起こると主張している人々がいるのです」（社会部記者）



レプリコン接種者の入店拒否も

一部の医療機関やクリニック、有名ヨガチェーンなどでもレプリコン接種者の入店拒否が起きている。

都内のXクリニックもその一つだ。HP上で、レプリコン接種者の「立ち入りを拒否」を明示し、シェディング（伝播）によって「レプリコンワクチンに感染する可能性は十分に予測さ

れる」という記述まである。

Xクリニックに電話をすると、スタッフが応じた。

——なぜ「立ち入りを拒否」するのか？

「当院のHP上にある、ちょっと長い文章に（言い分は）全て書かれています。色々と賛否両論があるでしょうが、それが来るだろうとわかって書かれた文章かと思います。多分（院長に聞いても）同じ答えだという気がしますね」

専門家の見解は…

このようなレプリコンを巡る騒動。日米で感染症の研究をしてきた長崎大学の森内浩幸教授は、こう見ている。

「盛んに言われているシェディングは、もともとウイルスに感染した人が、ウイルスを咳などで飛沫やエアロゾル（微小な粒子）とともに排出することを指した言葉です。その言葉に、レプリコンの mRNA（タンパク質の設計図）が“増幅”し続けるという特徴を無理やりくっつけて、恐ろしい印象を与えるようになった。しかし、mRNA は感染力を持つウイルスのような“生き物”ではないので、『シェディングする』ことも『増殖し続けること』もありません」

高齢者が接種を検討すべき“5大ワクチン”とは

一方で、森内教授は高齢者にはコロナワクチン以外にも、接種を検討すべきワクチンが複数あると語る。「免疫力が衰えてくる60歳以上は、コロナワクチン以外にも接種を検討して欲しいワクチンが4種類あります。インフルエンザ、肺炎球菌、RSウイルス、带状疱疹のワクチンです。これらは“高齢者のための5大ワクチン”といってもよいでしょう」

10月16日（水）12時配信の「週刊文春 電子版」及び10月17日（木）発売の「週刊文春」では、高齢者のための5大ワクチンの効果、打ち方、副反応、注意点を詳報。

また、賛成派、反対派双方の識者に取材し、レプリコンワクチンの安全性を徹底検証した「新型コロナワクチン『レプリコン』は安全なのか？」も「週刊文春 電子版」で配信している。「週刊文春」編集部／週刊文春 2024年10月24日号